

B-ぐる NEWS

あじさいまつりでB-ぐるミニカーを展示

6月7日（土）白山神社で開かれた文京あじさいまつりに参加しました。夏のような暑さの中、B-ぐる友の会のテントに足を運んでくださった皆様、ありがとうございました！
今回の目玉はB-ぐるミニカーの展示。子ども達からマニア風の？大人まで、大勢の注目を集めました。現在開発中の「B-ぐる着せ替えシール」があれば、誰でも簡単にB-ぐるミニカーを作れます。お披露目と販売は11月14、15日の文京博覧会（ぶんぱく）の予定。B-ぐる友の会のブースでお待ちしております！



今季の一枚

ぶんきょう
音の玉手箱



【編集後記】

見えないけれども記憶に残る音。聞こえるはずなのに聞いていない音。音の世界の奥深さに気づかされました。(N)
生きてきてどれほどの種類の音を聴いて来たかな～？五感を持てた幸せを感じて黙想するこの頃です。(I)
スマホが当たり前のように普及した今、画面に気を取られて、耳はイヤホンで塞いでいる。そんな人が多い今だからこそ、こんな特集を組んでみたかったのです。(O)

people (びいぷる) vol.24

発行日 ● 2025年10月

企画・発行 ● B-ぐる友の会

<https://www.b-guru.tokyo/> ▲友の会HP

文京区向丘 1-13-1 さんぽみち総合研究所(株)内

協力 ● 日立自動車交通(株) ● (株)アイフィス



発見！B-ぐる沿線のディープな情報

people

ぶんきょう

音図鑑

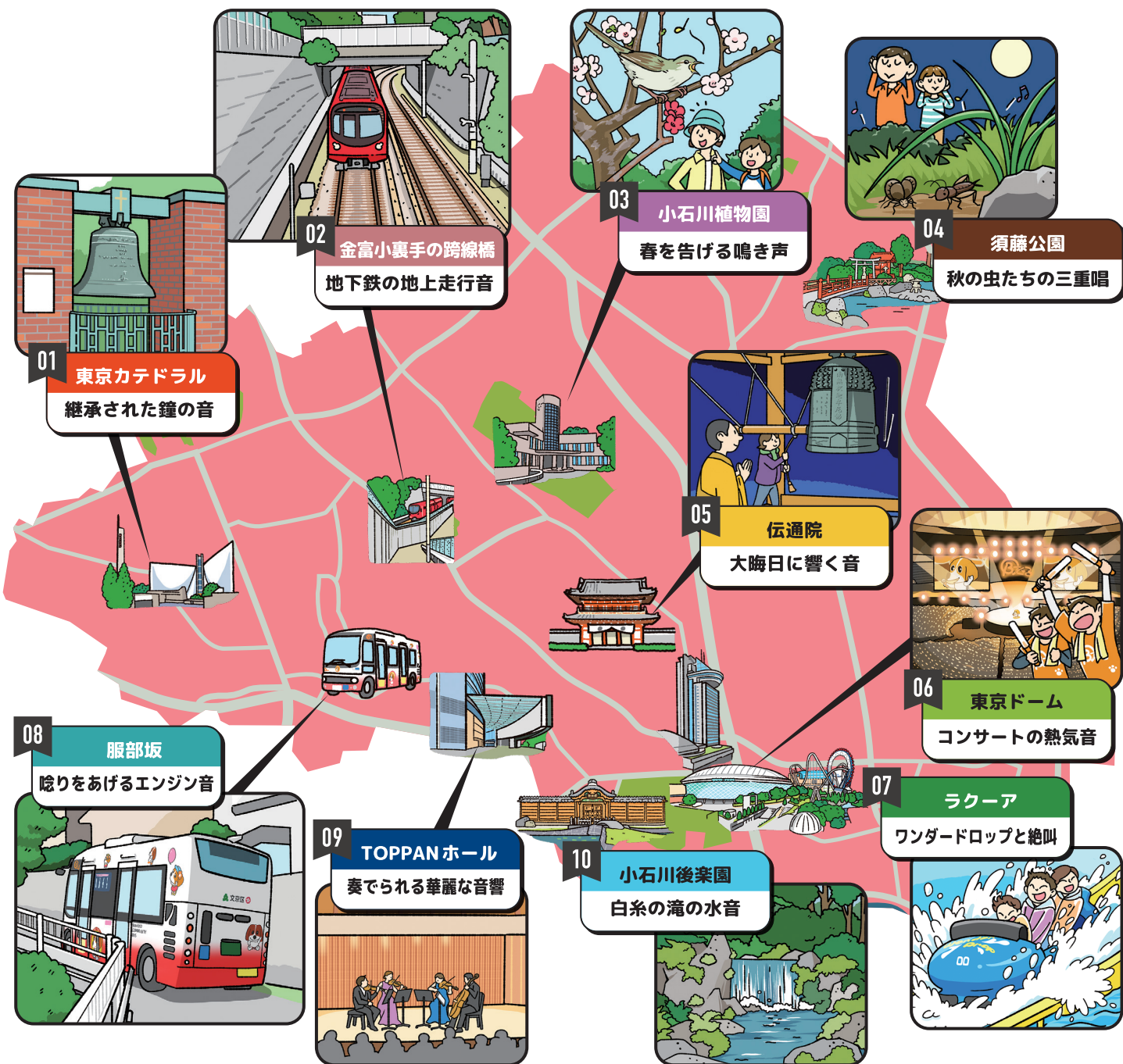


“SOUND OF BUNKYO”

10
2025
vol.24

ばんきょう音図鑑

日常茶飯、聞こえて当たり前のような音。
文京区限定、ほかでは聞けない音を集めました。



01

継承された鐘の音

1964年、丹下健三設計の東京カテドラルが献堂された際に、鐘楼も4連の鐘がついた塔に代替わりしました。以来、毎週日曜日の午前10時と正午に祈りの鐘の音を響かせています(現在は録音再生)。初代の鐘は明治初期にフランスから渡来したジョセフィーヌの鐘で、戦災を免れ現在はルルドの洞窟脇で静かな時を過ごしています。



目白台・小日向ルート10番
ホテル椿山荘東京

02

地下鉄の地上走行音

丸の内線の後楽園駅と茗荷谷駅の区間は、地下鉄が地上を(しかも通常速度で)走行しています。金富小裏手の踏線橋からは、トンネルを抜けて来た電車がレールの継ぎ目を通過するガタンゴトンという走行音とともに、地下鉄の屋根を見下ろすというシュールな光景は、地形が複雑な文京区ならでは。



目白台・小日向ルート4番
TOPPANホール・印刷博物館

03

春を告げる鳴き声

小石川植物園は台地、低地、泉水地など多様な生態系から多くの鳥たちが集まる都内有数の野鳥観察スポットです。春を告げる「ホーホケキョ」の声は聞こえても、地味な緑茶色(ウグイス色)で茂みに隠れて暮らすため、その姿はなかなか見ることが出来ません。私たちが思い浮かべる「梅にウグイス」のイメージとは少々勝手が異なるようです。

目白台・小日向ルート29番
共同印刷

04

秋の虫たちの三重唱

江戸時代、道灌山は虫聞き(月見や酒宴を楽しみながら松虫や鈴虫の声を傾ける)という風流な遊びの名所として知られていました。不忍通りを隔てた須藤公園でも、池の叢の近くから遠くから秋の虫たちの二重・三重の合唱に包み込まれます。夜も更ると、バリトンを利かせた牛ガエルの共演に遭遇することもあります。



千駄木・駒込ルート19番
特養ホーム千駄木の郷

05

大晦日に響く音

除夜の鐘は108の煩惱を祓って新年を迎えると言われていいます。昔は時を告げるのに鐘を撞いたそうですが、近年は騒音と言われることもあり、大晦日の除夜の鐘が残っています。歴史ある文京区も区内各地のお寺で除夜の鐘を鳴らしています。伝通院では事前予約(有料)で撞くことが可能です。(区内他でもあります)迎年の多幸を願って、ご〜ん!

目白台・小日向ルート31番
こんにゃくえんま

06

コンサートの熱気音

ポピュラーミュージシャンがライブハウスから始まり各地のライブ会場を渡り行き着く最高のステージは東京ドームでしょう。アーティストのライブ当日は内外で人々、ライブ最中は着陸したUFOの如き青白く輝くドームから演奏音と歓声が聞こえてきます。冬場北風が吹きとおるBーぐるを待つ乗り場にも会場の熱気が伝わります。



本郷・湯島ルート2番
春日一丁目

07

ワンダードロップと絶叫

ラクーアの中庭は池に囲まれたステージやテラス席があり、テイクアウトのグルメが楽しめます。日に輝く水面を見ていると上階の小川で悠然と流れていたボートがウオーター 슬라이ダーと化して悲鳴と共に落下して来ます。乗船者は水飛沫を浴びて濡れますが、今夏はすぐに乾いて大人気でした。



千駄木・駒込ルート6番
ラクーア

08

唼りをあげるエンジン音

Bーぐる路線の中で最大の「難所」といえば、服部坂でしょう。狭い道幅に急な坂、登った先に待ち構えるクラシックカー。運転手さんは、巧みなコース取りとアクセルワークで難なくクリアしていきます。低速で負荷がかかったエンジンにアクセルを踏み込むと、喘いでいるかのようなエンジン音が響き渡ります。



目白台・小日向ルート21番
文京総合福祉センター

09

奏でられる華麗な音響

クラシック音楽会場は文京シビックホールとBーぐる目白台・小日向ルートにあるTOPPANホールが音響も良く、有名な演奏家から若手まで定期的にコンサートが開催されています。残念ながら音はホール内での鑑賞に限りませんが、文京区内の本格的な音響設備が整ったホールでは上質の楽器演奏はCDなどでは味わえない音と荘厳な雰囲気味わえます。

目白台・小日向ルート4番
TOPPANホール・印刷博物館

10

白糸の滝の水音

繊細な水の流れが、細く白い糸のように見えることからその名があります。小石川後楽園の白糸の滝も自然の名勝を模した作庭技法の一つです。沢渡りと呼ばれる飛石の園路から耳を傾ければ、滝の水音が周囲の静寂を際立たせてくれます。目の前の景色と相まってそう感じられたのですが、ここから景色を取り払うと、さて?気になる方は二次元コードでお試しを。



千駄木・駒込ルート2番
小石川後楽園入口

スマホで二次元コードを読み取ると、音が聞こえます。



ダイヤル式電話機

ダイヤル式の操作手順は、電話番号数字をダイヤルに当てはめて右にツメまで回します。かかった方への呼び出し音は非常ベルのごとく鳴り響きました。

ゼンマイ式振り子時計



長針と短針のゼンマイを文字盤にある2つの穴に鍵を挿して巻き上げます。コチコチと振り子に合わせ音がして定時にゴーンとゴングが鳴って時刻を知らせてくれました。



国内外の道にはたくさんの乗り物（ビークル）が走っています。目的もデザインも様々、Bーぐるだけでない話題を紹介します。

日本と世界の車内アナウンス事情



車内アナウンスも「おもてなし」？

乗り物に乗るといろいろなアナウンスが聞こえてきます。今ではほとんどが自動音声で、生放送は少なくなりました。行き先だったり次の駅であったり、乗り降りの注意事項だったり様々です。特に長いのが新幹線で、行き先だけでなく各駅の到着時間、接続する列車や安全面の注意などを日本語と英語で行うのでかなり長く感じます。ところが海外の列車やバスでは、車内アナウンスはほとんどありません。列車も出発の放送も合図もなくいつの間にか走り出します。到着駅のアナウンスもごく短いもので、気を付けていないと乗り過ごすのではないかと心配になります。

航空機では国内外ともあまり長いアナウンスはありません。国内の航空会社便では季節の話や「お体にお気を付けください」等の挨拶があることがありますが、海外のエアラインは必要なこと以外はアナウンスしません。これは日本ではアナウンスが乗客に対するサービスだと考えているからでしょう。

うるさいと思ったけど…やっぱり必要かも

海外の方式に慣れると日本の車内アナウンスは少々うるさく感じます。一方、ある国で地下鉄に乗ったところ、突然現地語で放送があり乗客は皆降りてしまいました。おそらく何らかの原因で運行の打ち切りだったと思うのですが、訳も分からず私も降りました。こういう時はアナウンスがあっても役に立ちません。日本にきている外国人も同じ立場なので何かあった場合は助けが必要ですね。



絶滅危惧な音

身の回りで聞こえた懐かしい音たち



牛乳配達

早朝の町を頑丈な自転車の荷台に牛乳瓶を詰めて専用のボックスに配達されていましたが、

スーパーの台頭と紙パックの普及でガラス瓶の擦れあう音はなくなりました。



豆腐売りのラッパ

豆腐屋さんの移動販売は「トーフ」と言いながらラッパを鳴らして来ました。家から鍋を持って駆けつけ買う子供の手伝いでもあり、包装材の無駄もありませんでした。

印刷工場

印刷製本関係の町工場が集まる地域が点在し、印刷製本のリズムカナルな機械音と紙製品を運ぶフォークリフト、トラックが狭い道路を往来する姿も少なくなりました。



切符ハサミ



昭和の改札では、駅員が切符きりのハサミをもち無沙汰にカンカンカンと一定のリズムで鳴らす金属音が響き、その断続的な音が駅の日常的な風景となって乗客の記憶に刻まれていました。